

市民・団体 インタビュー

鶴

×

市議会

チャレンジする人を応援する鶴ヶ島に

市民の皆様は議会への関心を持っていただくとともに、聴取した意見を議会からの政策提言等につなげていくため、市民や団体にインタビューをします。その内容を今号からの裏表紙に掲載します。



鶴ヶ島西中学校出身で、本市のふるさと応援大使でもある3人組バンド「鶴」。

これまでも地元愛にあふれる活動を行ってきた彼らですが、昨年10月には、本市初の野外フェスとなる「鶴フェス」を鶴ヶ島市運動公園で開催し、全国から約1万1000人が来場しました。(上の写真：左から神田雄一朗氏、秋野温氏、笠井“どん”快樹氏)



● 鶴ヶ島に対する思い

ノリで決めたバンド名「鶴」でしたが、今思えば、当初から郷土愛があったのだと思います。鶴ヶ島に対する思いが冷めていた時期もありましたが、バンドを始めて全国を回る中で、自分たちには「地元」があり、それは、ほかのバンドにはない特徴であると気づきました。

全国で活動していますが、鶴ヶ島市民であれば全員が知っているというバンドになりたいです。

● 議会への関心

バンドマンは、投票に行く人が多いです。個人事業主であり、好きなことを仕事にしているためか、社会人としての責務を果たそうといった空気があります。

● 「鶴フェス」を開催

運動公園で行われている産業まつりにライブ出演した際、市職員と野外フェスの開催についての話で盛り上がりましたが、本当に開催できるとは思っていませんでした。

鶴ヶ島の飲食店とコンタクトを取り、出店してもらいましたが、他の有名フェスと比べてもクオリティが高かったです。



「鶴」のメンバーとインタビューを行った議会報編集委員会

ファンの方からも同様の意見を聞いています。

● 鶴ヶ島はちょうどいい

音楽活動をするに当たっては、地方の方が自由が利くので、ずっと都会にいない必要はないと感じています。

都会に近い鶴ヶ島は、ちょうどいい位置にあると思います。

● 鶴ヶ島をこうしたい

チャレンジができる環境、何かに取り組むきっかけや、そうしたことを知る機会があるまちなってほしいです。

小・中学生に楽器を教える機会があればやってみたいですね。演奏だけでなく、編集や配信まで教えられると面白いですね。

市議会は市民の声を直接聞きに出かけます！

編集 後記

北公民館（現・北市民センター）で腕を磨き、鶴ヶ島から飛び立った「鶴」の3人。3月4日にリリースされたアルバム「普通」には、鶴フェスに向かっていく時の気持ちがかもっている曲もあると聞きました。アルバムのジャケットは、鶴ヶ島駅東口の駐輪場。彼らの鶴ヶ島市への想いが、強く感じられます。

今回、「鶴」のメンバーと話をし、次世代を担う子どもたちにとって、愛着の持てるまちづくりをしていくことの重要性を強く感じました。

(内)

(議会報編集委員会)

委員長 大野 洋子
副委員長 出雲 敏太郎
委員 山中 基充
委員 小林 ひとみ
委員 太田 忠芳
委員 石塚 節子
委員 内野 嘉広
委員 持田 靖明